

令和8年度入学生対象

別記様式1

主専攻プログラム詳述書

開設学部（学科）名〔 医学部保健学科 理学療法学専攻 〕

プログラムの名称（和文） （英文）	理学療法学プログラム Program for Physical Therapy
1. 取得できる学位 学士（保健学）	
<p>2. 概要</p> <p>保健学科理学療法学専攻が提供する教育プログラムは、国内はもとより国際的にも保健・医療・福祉などの幅広い分野で活躍できる理学療法実践者にふさわしい豊かな人間性と教養を培い、専門職となるための基礎的知識、技能、態度を修得し、さらに科学的思考力と創造性に富んだ理学療法士になることを目指すものである。理学療法を通じて人と社会のために働く人材を育成し、社会貢献することが本プログラムの大きな意義である。卒業時に下記の基本的知識、基本的技能および基本的態度・習慣の全項目を習得することを目標とする。</p>	
<p>3. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・プログラムの到達目標）</p> <p>理学療法学プログラムでは、専門職の理学療法士としての基礎知識、技能、態度を修得し、さらにはグローバルな視野や総合的な判断能力を有し、科学的思考力や創造性を発揮しうる人材を養成する。そのため、本プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程の定める基準となる単位を修得した学生に「学士（保健学）」の学位を授与する。</p> <p>プログラムの到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 理学療法の基礎となる基本的知識や必要な技能を修得することにより、理学療法士としての土台を築くことができる。 2) 安全性や倫理性に配慮した患者に寄り添う理学療法を実践し、患者やチーム医療を担う他職種との良好な関係を構築できる人間性を有している。 3) 理学療法の諸問題を的確にとらえ、常に科学的な思考で向き合い、解決する能力を備えている。 4) 国際社会および地域社会の変化するニーズを的確にとらえ、生涯にわたって自ら学び続ける主体的な姿勢を有している。 	
<p>4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）</p> <p>理学療法学プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を実現させるために、次の方針のもとに教育課程を編成し、実践する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 理学療法の基礎知識・技能の修得 早期より専門教育を取り入れ、理学療法的発想をもとに問題の発見と解決に向けた探求心を育む。講義や演習、実習を通じて、理学療法を展開するために必要となる基礎知識と技能・態度の修得に努める。さらに、段階的に臨床実習を経験することで、理学療法の実践に適合した知識、技能、態度の統合を確立させ、保健・医療・福祉に関わる理学療法士としての資質と自覚を高める。 2) チーム医療を担う人間性の形成 教養教育科目を通して、基礎学力の向上と人間的価値観を深め、医療倫理についても学ぶ。また、学部・学 	

科を超えて他職種との連携により医療・福祉を考える多職種間連携教育

(IPE)では、チーム医療について学ぶ。これらの実践の場として、臨床実習において、安全性や生命倫理に対する判断力、医療チームの一員として協同する技能と態度を修得する。

3) 科学的思考力の修得

卒業研究では、理学療法の課題やニーズを的確にとらえ、理学療法学の学問として意義と重要性について学ぶ。科学的思考力を持って能動的に課題と向き合い、調査や分析、実験などに基づき解決する技能、研究成果を論理的かつ明確に伝える技能や態度を修得する。

4) 国際社会・地域社会をリードする人材の育成

国際社会・地域社会の様々な場面に広く視野を向け、新たな価値を創造でき、世界の理学療法をリードする人材の育成を目指す。海外の理学療法現場やスポーツ現場、介護予防現場等でのフィールドワークを通じて、様々な社会の課題やニーズを学び、それらの解決に向けて主体的に考える態度を修得する。

5. 開始時期・受入条件

1年次（入学時）から理学療法学プログラムは開始される。学生は、入学時に次に定める高校までの履修科目に習熟していることを想定している。不十分なものは、以下の基盤科目の履修を必須とする。

科目名：初修物理学、初修生物学

広島大学在学の全学の学生に対しては転学部、または転学科の規定に基づき別途定める。

本プログラムの定員（受け入れ上限数）は35名である。

6. 取得可能な資格 理学療法士国家試験受験資格

7. 授業科目及び授業内容

授業科目名（プログラムの構造別に科目名を列挙）

【専門基礎科目】

A 人体の構造と機能及び心身の発達

- (1) 解剖学Ⅰ
- (2) 解剖学Ⅱ
- (3) 解剖学実習Ⅰ
- (4) 解剖学実習Ⅱ
- (5) 生理学Ⅰ
- (6) 生理学Ⅱ
- (7) 生理学実習
- (8) 基礎運動学
- (9) 運動学実習
- (10) 発達障害学

B 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

- (1) リハビリテーション科学入門
- (2) 病理学
- (3) リハビリテーション内科学Ⅰ
- (4) リハビリテーション内科学Ⅱ

- (5) リハビリテーション整形外科学総論
- (6) リハビリテーション整形外科学各論
- (7) リハビリテーション神経内科学
- (8) リハビリテーション精神医学総論
- (9) リハビリテーション精神医学各論
- (10) 栄養学
- (11) 臨床薬理学

C 保健医療福祉とリハビリテーションの概念

- (1) リハビリテーション概論
- (2) 社会福祉学
- (3) 多職種連携教育

D 英語によるコミュニケーション能力

- (1) 保健英語
- (2) Introduction to Epidemiology and Population Sciences
- (3) Global Health and Current Public Health Issues

E 統計学的解析能力

- (1) 応用統計学

F 基礎研究能力

- (1) 研究プロジェクト演習 I
- (2) 研究プロジェクト演習 II
- (3) 研究プロジェクト演習 III
- (4) 研究プロジェクト演習 IV
- (5) 研究プロジェクト演習 V

【専門科目】

A 基礎理学療法学

- (1) 理学療法概論
- (2) 基礎理学療法学
- (3) 臨床運動学

B 理学療法管理学

- (1) 救命救急法及びリスク管理
- (2) 職業倫理・職場管理学

C 理学療法評価学

- (1) 機能能力診断学
- (2) 機能能力診断学特論
- (3) リハビリテーション診断学
- (4) 機能能力診断学実習

D 理学療法治療学

- (1) 運動系理学療法学
- (2) 運動系理学療法学実習
- (3) こころとからだの発達科学
- (4) 神経系理学療法学
- (5) 神経系理学療法学演習
- (6) 内部障害リハビリテーション学
- (7) 内部障害リハビリテーション学実習
- (8) 物理療法学
- (9) 物理療法学実習
- (10) 補装具学
- (11) 補装具学演習
- (12) スポーツ医学
- (13) スポーツ外傷理学療法学総論
- (14) スポーツ外傷理学療法学各論
- (15) スポーツ外傷理学療法学実習

E 地域理学療法学

- (1) 地域理学療法学
- (2) 日常生活活動学
- (3) 日常生活活動学実習

F 臨床実習

- (1) 臨床実習Ⅰ
- (2) 臨床実習Ⅱ
- (3) 臨床実習Ⅲ

G 理学療法研究

- (1) 理学療法研究法
- (2) 卒業研究
- (3) 理学療法海外研修

※授業科目は、別紙1の履修表を参照すること。

※授業内容は、各年度に公開されるシラバスを参照すること。

8. 学習の成果

各学期末に、学習の成果の評価項目ごとに、評価基準を示し、達成水準を明示する。

各評価項目に対応した科目の成績評価をS=4、A=3、B=2、C=1と数値に変換した上で、加重値を加味し算出した評価基準値に基づき、入学してからその学期までの学習の成果を「極めて優秀(Excellent)」、「優秀(Very Good)」、「良好(Good)」の3段階で示す。

成績評価	数値変換
S (秀：90点以上)	4
A (優：80～89点)	3
B (良：70～79点)	2
C (可：60～69点)	1

学習の成果	評価基準値
極めて優秀(Excellent)	3.00～4.00
優秀(Very Good)	2.00～2.99
良好(Good)	1.00～1.99

各項目の学習方法は別紙「プログラムの教育・学習方法」に記す。

○知識・理解

1. 一般教養に関する知識・理解
2. 基礎医学に関する知識・理解、病因病態に関する知識・理解
3. リハビリテーション医学・理学療法学に関する知識・理解

○能力・技能

1. 基礎医学に関する知識・理解の展開
2. リハビリテーション医学・理学療法学に関する知識・理解の展開

○総合的な力

1. 生命倫理に対する判断力
2. 医療チーム・研究チームの一員として協同する能力と態度
3. 研究能力及び自己教育力

※別紙2の評価項目と評価基準との関係を参照すること。

※別紙3の評価項目と授業科目との関係を参照すること。

※別紙4のカリキュラムマップを参照すること。

9. 卒業論文（卒業研究）（位置づけ、配属方法、時期、評価基準等）

○目的

理学療法に関連した保健・医療・福祉分野での疑問点に対して、科学的根拠に基づいた問題解決能力を修得し、それを生涯にわたって高め続ける態度を養う。

○概要

① 研究活動に求められる態度

将来、研究活動に参画できるようになるために、必要な基本的理念および態度を修得する。

② 研究活動を学ぶ

将来、研究を自ら実施できるようになるために研究課題の達成までの研究プロセスを体験し研究活動に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。

③ 知的好奇心を育む

研究活動を通して、創造の喜びと新しいことを発見する研究の醍醐味を知り、感動する。

○配属時期と研究室配属方法

4年次「卒業研究」の履修は、全ての専門基礎科目・専門科目の単位を修得していることを条件とする。
研究室配属方法は別途定める。

○評価基準

次に定める評価基準に基づき評価するとともに、当該専門分野の発表会で学術研究に相応しい研究発表を行い、質疑に対し論理的かつ明解に応答すること。

1. 当該専門領域における学士としての基礎的知識を修得しており、問題を把握し解明する基本的な能力を身につけているか。
2. テーマの設定が学士として妥当なものであり、論文作成にあたっての問題意識が明確であるか。
3. 論文の記述（本文、図、表、引用など）が適切であり、論理的に妥当な結論が導かれているか。
4. 設定したテーマに際して、適切な調査・実験方法、あるいは論証方法を採用し、それに則って具体的な分析・考察がなされているか。

10. 責任体制

○ PDCA責任体制（計画(plan)・実施(do)・評価(check)・改善(action)）

理学療法学プログラムは、評価委員会(カリキュラムや講義内容などに関する教員の評価検討・対処を担当)、教務委員会(到達目標達成度など学生の評価検討・対処を担当)を設置し、理学療法学専攻長の主導、責任のもと、同プログラム担当教員全員が連携、協力して実施する。

教養教育科目履修基準表

医学部保健学科理学療法専攻

区分	科目区分		要修得単位数	授業科目等	開設単位数	履修区分	履修年次(注1)									
							1年次		2年次		3年次		4年次			
							前	後	前	後	前	後	前	後		
平和 科目 基盤	平和科目		2		2	選択必修			○							
	平和共修科目		1		1	必修	○									
大学 教育 基盤 科目	大学教育入門		2	大学教育入門	2	必修	○									
	教養ゼミ		2	教養ゼミ	2	必修	○									
展 開 ゼ ミ	展開ゼミ		(0)		1	自由選択	○	○								
	領域科目		2	倫理学	2	必修	○									
6				人文社会科学系科目群から1科目2単位以上 自然科学系科目群から2科目4単位以上	1又は2	選択必修	○	○								
	外 国 語 科 目	英語 (注2)	コミュニケーション基礎	2	コミュニケーション基礎 I	1	必修	○								
コミュニケーション I			2	コミュニケーション I A	1	必修	○									
2	コミュニケーション II	コミュニケーション I B	1	コミュニケーション II A	1	必修	○									
		コミュニケーション II B	1	コミュニケーション II A	1	必修		○								
0	初修外国語(注2) (ドイツ語, フランス語, 中国語のうちから1言語選 択)	ベーシック外国語 I	1	ベーシック外国語 II	1	自由選択	○									
		ベーシック外国語 III	1	ベーシック外国語 IV	1	自由選択	○									
6	情報・データサイエンス科目	情報・データ科学入門	2	ゼロからはじめるプログラミング	2	必修	○									
		データサイエンス基礎	2		2	必修		○								
2	健康スポーツ科目	2	健康スポーツ科学	2	必修	○										
(0)	社会連携科目	(0)		1又は2	自由選択	○	○									
2	基 盤 科 目	医療従事者のための心理学(注3)	2	2	必修		○									
0		初修物理学	2	(注4)	○											
0		初修生物学	2	(注4)	○											
計	必修・選択必修科目小計		31													
	自由選択科目小計		8	(注5)												
	教養教育科目合計		39													

注1: ○印は標準履修セメスターを表している。なお、当該セメスターで単位を修得できなかった場合はこれ以降に履修することも可能である。授業科目により開設期が異なる場合があるので、学生便覧の教養教育開設授業科目一覧で確認すること。

注2: 自学自習による「オンライン英語演習Ⅰ」、「オンライン英語演習Ⅱ」、「オンライン英語演習Ⅲ」:各1単位(同一科目を重複して単位を修得することは不可)の履修により修得した単位を、卒業に必要な英語の単位(6単位)に代えることが可能である。また、外国語技能検定試験、語学研修による単位認定制度もある。詳細は、学生便覧の教養教育の外国語に関する項及び「外国語技能検定試験等による単位認定の取扱いについて」を参照すること。

注3: 「医療従事者のための心理学」の単位を修得できなかった場合のみ、「心理学概論A」又は「心理学概論B」の履修により修得した単位を、「医療従事者のための心理学」の単位の修得として卒業に必要な単位(2単位)に算入することが可能である。

注4: 「初修物理学」、「初修生物学」の単位を修得すべき者は、保健学科において指定する。ただし、これらの単位は卒業要件単位には含まない。

注5: 自由選択科目は、展開ゼミ、要修得単位数を超えて修得した領域科目および初修外国語、履修基準表に記載されていない基盤科目、社会連携科目の中から合計8単位以上を修得すること。

専門教育科目履修基準表

医学部保健学科学療法学専攻

○数字は必修科目

区分	科目区分	授業科目	開設 単位数	履修区分	履修年次										
					1年次		2年次		3年次		4年次				
					前	後	前	後	前	後	前	後			
専門基礎科目	解剖学Ⅰ	2	必修	②											
	解剖学Ⅱ	2	必修		②										
	解剖学実習Ⅰ	1	必修			①									
	解剖学実習Ⅱ	1	必修				①								
	生理学Ⅰ	2	必修	②											
	生理学Ⅱ	2	必修		②										
	生理学実習	1	必修			①									
	基礎運動学	2	必修			②									
	運動学実習	1	必修				①								
	リハビリテーション科学入門	1	必修		①										
	病理学	1	必修				①								
	リハビリテーション概論	1	必修			①									
	社会福祉学	2	必修					②							
	多職種間連携教育	1	必修										①		
	リハビリテーション内科学Ⅰ	2	必修				②								
	リハビリテーション内科学Ⅱ	2	必修					②							
	リハビリテーション整形外科学総論	2	必修				②								
	リハビリテーション整形外科学各論	2	必修					②							
	リハビリテーション神経内科学	2	必修				②								
	リハビリテーション精神医学総論	2	必修					②							
	リハビリテーション精神医学各論	2	必修						②						
	栄養学	2	必修				②								
	臨床薬理学	2	必修				②								
	発達障害学	2	必修			②									
	保健統計学	2	必修						②						
	保健英語	1	自由選択				1								
	Introduction to Epidemiology and Population Sciences	2	自由選択					2							
	Global Health and Current Public Health Issues	2	自由選択						2						
	研究プロジェクト演習Ⅰ	1	自由選択				1								
	研究プロジェクト演習Ⅱ	1	自由選択					1							
	研究プロジェクト演習Ⅲ	1	自由選択						1						
	研究プロジェクト演習Ⅳ	1	自由選択							1					
	研究プロジェクト演習Ⅴ	1	自由選択								1				
	専門科目	理学療法概論	2	必修	②										
		基礎理学療法学	2	必修					②						
		臨床運動学	2	必修					②						
		救命救急法及びリスク管理	1	必修				①							
		職業倫理・職場管理学	1	必修							①				
		機能能力診断学	2	必修					②						
		機能能力診断学特論	2	必修				②							
		機能能力診断学実習	1	必修						①					
		リハビリテーション診断学	1	必修							①				
		運動系理学療法学	2	必修					②						
		運動系理学療法学実習	1	必修						①					
		こころとからだの発達科学	2	必修					②						
		神経系理学療法学	2	必修					②						
		神経系理学療法演習	1	必修							①				
内部障害リハビリテーション学		2	必修						②						
内部障害リハビリテーション学実習		1	必修							①					
物理療法学		2	必修			②									
物理療法実習		1	必修				①								
補装具学		2	必修					②							
補装具学演習		1	必修							①					
スポーツ医学		1	必修						①						
スポーツ外傷理学療法学総論		1	必修						①						
スポーツ外傷理学療法学各論		1	必修						①						
スポーツ外傷理学療法学実習		1	必修							①					
理学療法研究法		2	必修							②					
コンディショニング科学		1	自由選択						1						
トレーニング科学		1	自由選択						1						
地域理学療法学		2	必修						②						
日常生活活動学		2	必修						②						
日常生活活動学実習		1	必修							①					
臨床実習Ⅰ		2	必修				②								
臨床実習Ⅱ		5	必修							⑤					
臨床実習Ⅲ		14	必修								⑭				
理学療法海外研修	2	自由選択							2						
卒業研究	4	必修											④		
専門基礎科目	開設単位数	必修：42単位	自由選択：10単位	要履修単位数	必修：42単位										
専門科目	開設単位数	必修：67単位	自由選択：4単位	要履修単位数	必修：67単位										
専門教育科目計			109												
卒業要件単位数			148												

注1：「臨床実習Ⅱ」の履修は、「機能能力診断学」及び「機能能力診断学実習」の単位を取得していることを条件とする。

注2：実習及び演習科目の履修は、履修条件を満たしていない場合、許可されないことがある。

注3：「臨床実習Ⅲ」の履修は、全ての専門基礎科目及び専門科目の単位を修得していることを条件とする。

理学療法学プログラムにおける学習の成果
評価項目と評価基準との関係

学習の成果		評価基準		
評価項目		極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
知識・理解	(1) 一般教養に関する知識・理解	各コースにおいて該当する理学療法教育プログラムの到達目標に基づいた試験を行う。各コースについて、他の項目と関連付けて応用的な説明ができる。	各コースにおいて該当する理学療法教育プログラムの到達目標に基づいた試験を行う。各コースについて、他の項目と関連付けて説明ができる。	各コースにおいて該当する理学療法教育プログラムの到達目標に基づいた試験を行う。各コースについて、基本的な説明ができる。
	(2) 基礎医学に関する知識・理解、病因病態に関する知識・理解			
	(3) リハビリテーション医学・理学療法学に関する知識・理解			
能力・技能	(1) 基礎医学に関する知識・理解の展開	各コースで行われる講義において、 1. 該当する理学療法教育プログラムの到達目標に基づいた試験を行う。各コースについて、他の項目と関連付けて応用的な説明ができる。	各コースで行われる講義において、 1. 該当する理学療法教育プログラムの到達目標に基づいた試験を行う。各コースについて、他の項目と関連付けて説明ができる。	各コースで行われる講義において、 1. 該当する理学療法教育プログラムの到達目標に基づいた試験を行う。各コースについて、基本的な説明ができる。
	(2) リハビリテーション医学・理学療法学に関する知識・理解の展開	各コースで行われる演習・実習において、 1. 演習・実習の目的を理解し、得られる結果を論理的に考察でき、レポートを作成することができる。さらに予想された以外の結果に対しても考察することができ、新しい仮説を立てて、その説明をすることができる。 2. 実習に対する試問が行われた際には、90%以上の回答率で答えることができる。	各コースで行われる演習・実習において、 1. 演習・実習の目的を理解し、得られる結果を論理的に考察でき、レポートを作成することができる。さらに予想された以外の結果に対しても考察することができる。 2. 実習に対する試問が行われた際に、80%以上の回答率で答えることができる。	各コースで行われる演習・実習において、 1. 演習・実習の目的を理解し、得られる結果を論理的に考察でき、レポートを作成することができる。
総合的な力	(1) 生命・倫理に対する判断力	臨床実習の場や研究実施において、生命・倫理を理解し、実際にこれらの判断を適切に行わせる。	臨床実習の場や研究実施において、生命・倫理を理解し、実際にどのような状況下でこれらの判断力が行使されるかを理解する。	これに関する到達目標を理解している。
	(2) 医療チーム・研究チームの一員として協働する能力と態度	1. 他の医療スタッフ、研究スタッフとの役割分担を理解し、医療チーム、研究チームの一員として相応しい態度を積極的にとることができる。 2. 課題達成のために、他者の意見を理解し、チームの一員として相応しい態度を自ら率先してとることができる。	1. 他の医療スタッフ、研究スタッフとの役割分担を理解し、医療チーム、研究チームの一員として相応しい態度をとることができる。 2. 課題達成のために、他者の意見を理解し、チームの一員として相応しい態度をとることができる。	1. 医療チーム、研究チームの一員としての態度をとることができる。 2. 課題達成のために、他者の意見を理解し、チームの一員として他者の意見や行動を妨げない態度をとることができる。
	(3) 研究能力及び自己教育力	1. 研究内容を理解し、その達成に向けて積極的に取り組むことができる。 2. 問題点を自ら進んで解決することができる。	1. 研究内容を理解し、その達成に向けて積極的に取り組むことができる。 2. 問題点を自ら進んで解決しようと努力することができる。	1. 研究内容を理解し、その達成に向けて、指示に従った行動をとることができる。

主専攻プログラムにおける教養教育の位置づけ

本プログラムは、保健・医療・福祉の分野において理学療法士として活躍するための専門的知識や技術はもとより、豊かな人間性や幅広い教養を身につけ、生涯にわたって自ら学び続けるしなやかで創造的な人材を育成するため、1年次は東千田・東広島キャンパスで他学部の学生と共に教養教育科目を学ぶ。

学習の成果	1年				2年				3年				4年			
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
1. 一般教養に関する知識・理解	初修生物学(Δ)	初修物理学(Δ)	データサイエンス基礎(◎)	コミュニケーションIIA(◎)	平和科目(◎)	平和科目(◎)	保健英語(Δ)	保健英語(Δ)	保健統計学(◎)	保健統計学(◎)						
2. 基礎医学に関する知識・理解	初修生物学(Δ)	初修物理学(Δ)	医療従事者のための心理学(◎)	コミュニケーションIIA(◎)	リハビリテーション内科学I(◎)	リハビリテーション内科学I(◎)	リハビリテーション内科学II(◎)	リハビリテーション内科学II(◎)	リハビリテーション精神医学各論(◎)	リハビリテーション精神医学各論(◎)	理学療法研究法(◎)	理学療法研究法(◎)				
	大学教育入門(◎)	倫理学(◎)	データサイエンス基礎(◎)	コミュニケーションIIB(◎)	リハビリテーション整形外科総論(◎)	リハビリテーション整形外科各論(◎)	リハビリテーション精神医学総論(◎)	リハビリテーション精神医学各論(◎)	Global Health and Current Public Health Issues(Δ)	Global Health and Current Public Health Issues(Δ)	リハビリテーション診断学(◎)	トレーニング科学(Δ)				
	教養ゼミ(◎)	健康スポーツ科学(◎)	ゼロからはじめるプログラミング(◎)	コミュニケーション基礎II(◎)	リハビリテーション神経内科学(◎)	リハビリテーション神経内科学(◎)	リハビリテーション精神医学総論(◎)	リハビリテーション精神医学各論(◎)	臨床運動学(◎)	臨床運動学(◎)		コンディショニング科学(Δ)				
	情報・データ科学入門(◎)	コミュニケーションIA(◎)	コミュニケーションIIA(◎)	ベーシック外国語IV(Δ)	病理学(◎)	病理学(◎)	Introduction to Epidemiology and Population Sciences(Δ)	Introduction to Epidemiology and Population Sciences(Δ)	臨床運動学(◎)	臨床運動学(◎)						
	コミュニケーションIA(◎)	コミュニケーションIB(◎)	コミュニケーションIIB(◎)	解剖学II(◎)	栄養学(◎)	栄養学(◎)	社会福祉学(◎)	社会福祉学(◎)	日常生活活動学(◎)	日常生活活動学(◎)						
	コミュニケーションIB(◎)	コミュニケーション基礎I(◎)	コミュニケーション基礎II(◎)	生理学II(◎)	臨床薬理学(◎)	臨床薬理学(◎)	機能能力診断学(◎)	機能能力診断学(◎)	スポーツ外傷理学療法学総論(◎)	スポーツ外傷理学療法学各論(◎)						
	コミュニケーション基礎I(◎)	ベーシック外国語II(Δ)	ベーシック外国語III(Δ)	発達障害学(◎)	基礎運動学(◎)	基礎運動学(◎)	運動系理学療法学(◎)	運動系理学療法学(◎)	スポーツ医学(◎)	地域理学療法学(◎)						
	ベーシック外国語I(Δ)	解剖学I(◎)	解剖学II(◎)	物理療法学(◎)	機能能力診断学特論(◎)	機能能力診断学特論(◎)	神経系理学療法学(◎)	神経系理学療法学(◎)	地域理学療法学(◎)	基礎理学療法学(◎)						
	解剖学I(◎)	生理学I(◎)	生理学II(◎)				こことからの発達科学(◎)	こことからの発達科学(◎)	基礎理学療法学(◎)							
		リハビリテーション科学入門(◎)	リハビリテーション概論(◎)				補装具学(◎)	補装具学(◎)								
	理学療法概論(◎)	発達障害学(◎)				救命救急法及びリスク管理(◎)										
		物理療法学(◎)														
3. リハビリテーション医学・理学療法に関する知識・理解	初修生物学(Δ)	初修物理学(Δ)	医療従事者のための心理学(◎)	コミュニケーションIIA(◎)	平和科目(◎)	平和科目(◎)	保健英語(Δ)	保健英語(Δ)	保健統計学(◎)	保健統計学(◎)	理学療法研究法(◎)	理学療法研究法(◎)				
	コミュニケーションIA(◎)	健康スポーツ科学(◎)	コミュニケーションIIA(◎)	コミュニケーションIIB(◎)	リハビリテーション内科学I(◎)	リハビリテーション内科学I(◎)	リハビリテーション内科学II(◎)	リハビリテーション内科学II(◎)	リハビリテーション精神医学各論(◎)	リハビリテーション精神医学各論(◎)	リハビリテーション診断学(◎)	トレーニング科学(Δ)				
	コミュニケーションIB(◎)	コミュニケーションIA(◎)	コミュニケーションIIB(◎)	コミュニケーション基礎II(◎)	リハビリテーション整形外科総論(◎)	リハビリテーション整形外科各論(◎)	リハビリテーション精神医学総論(◎)	リハビリテーション精神医学各論(◎)	臨床運動学(◎)	臨床運動学(◎)	職業倫理・職場管理学(◎)	コンディショニング科学(Δ)				
	コミュニケーション基礎I(◎)	コミュニケーションIB(◎)	コミュニケーション基礎II(◎)	ベーシック外国語IV(Δ)	リハビリテーション神経内科学(◎)	リハビリテーション神経内科学(◎)	リハビリテーション精神医学総論(◎)	リハビリテーション精神医学各論(◎)	臨床運動学(◎)	臨床運動学(◎)						
	ベーシック外国語I(Δ)	コミュニケーション基礎I(◎)	ベーシック外国語III(Δ)	解剖学II(◎)	病理学(◎)	病理学(◎)	社会福祉学(◎)	社会福祉学(◎)	日常生活活動学(◎)	日常生活活動学(◎)						
	平和共修科目(◎)	ベーシック外国語II(Δ)	平和共修科目(◎)	生理学II(◎)	栄養学(◎)	栄養学(◎)	機能能力診断学(◎)	機能能力診断学(◎)	スポーツ外傷理学療法学総論(◎)	スポーツ外傷理学療法学各論(◎)						
	解剖学I(◎)	平和共修科目(◎)	解剖学II(◎)	発達障害学(◎)	臨床薬理学(◎)	臨床薬理学(◎)	運動系理学療法学(◎)	運動系理学療法学(◎)	スポーツ医学(◎)	地域理学療法学(◎)						
		解剖学I(◎)	生理学II(◎)	物理療法学(◎)	基礎運動学(◎)	基礎運動学(◎)	神経系理学療法学(◎)	神経系理学療法学(◎)	地域理学療法学(◎)							
		生理学I(◎)	リハビリテーション概論(◎)				こことからの発達科学(◎)	こことからの発達科学(◎)	基礎理学療法学(◎)	基礎理学療法学(◎)						
		リハビリテーション科学入門(◎)	発達障害学(◎)				補装具学(◎)	補装具学(◎)								
	理学療法概論(◎)	物理療法学(◎)														
1. 基礎医学に関する知識・理解の展開					解剖学実習I(◎)	解剖学実習I(◎)	解剖学実習II(◎)	解剖学実習II(◎)	機能能力診断学実習(◎)	機能能力診断学実習(◎)	内部障害リハビリテーション学実習(◎)	内部障害リハビリテーション学実習(◎)				
					生理学実習(◎)	生理学実習(◎)	運動学実習(◎)	運動学実習(◎)	運動系理学療法学実習(◎)	運動系理学療法学実習(◎)	スポーツ外傷理学療法学実習(◎)	スポーツ外傷理学療法学実習(◎)				
					物理療法学実習(◎)	物理療法学実習(◎)			神経系理学療法学実習(◎)	神経系理学療法学実習(◎)	日常生活活動学実習(◎)	日常生活活動学実習(◎)				
									補装具学実習(◎)	補装具学実習(◎)		理学療法海外研修(Δ)				
2. リハビリテーション医学・理学療法に関する知識・理解の展開					解剖学実習I(◎)	解剖学実習I(◎)	解剖学実習II(◎)	解剖学実習II(◎)	機能能力診断学実習(◎)	機能能力診断学実習(◎)	内部障害リハビリテーション学実習(◎)	内部障害リハビリテーション学実習(◎)				
					生理学実習(◎)	生理学実習(◎)	運動学実習(◎)	運動学実習(◎)	運動系理学療法学実習(◎)	運動系理学療法学実習(◎)	スポーツ外傷理学療法学実習(◎)	スポーツ外傷理学療法学実習(◎)				
					物理療法学実習(◎)	物理療法学実習(◎)			神経系理学療法学実習(◎)	神経系理学療法学実習(◎)	日常生活活動学実習(◎)	日常生活活動学実習(◎)				
									補装具学実習(◎)	補装具学実習(◎)		理学療法海外研修(Δ)				
総合的な能力	1. 生命倫理に対する判断力					臨床実習I(◎)	救命救急法及びリスク管理(◎)				臨床実習II(◎)	臨床実習II(◎)	臨床実習III(◎)	臨床実習III(◎)	卒業研究(◎)	卒業研究(◎)
	2. 医療チーム・研究チームの一員として協働する能力と態度					臨床実習I(◎)					職業倫理・職場管理学(◎)	理学療法海外研修(Δ)	臨床実習III(◎)	臨床実習III(◎)		
	3. 研究能力及び自己教育力										職業倫理・職場管理学(◎)		多職種連携教育(◎)		卒業研究(◎)	卒業研究(◎)
											理学療法海外研修(Δ)					

(例) 専門基礎 専門科目 卒業論文 (◎)必修科目 (○)選択必修科目 (Δ)選択科目

理学療法学プログラム担当教員リスト

教員名	職名	研究室
浦川 将	教授	リハビリテーション情動科学
濱田 泰伸	教授	生体機能解析制御科学
高橋 真	教授	生体運動・動作解析学
藤田 直人	教授	生体環境適応科学
山田 崇史	教授	スポーツリハビリテーション学
関川 清一	准教授	生体機能解析制御科学
猪村 剛史	准教授	リハビリテーション情動科学
黒瀬 智之	助教	生体構造学
石井 陽介	助教	生体環境適応科学
有馬 知志	助教	スポーツリハビリテーション学
石原 萌香	助教	生体運動・動作解析学